

海をつなぐマンガ50選

海は、マンガで
もっと面白くなる。

contents

- 生きている海
- 見守る海
- 海をつなぐマンガ50選
- マンガの海を読みとく
- マンガミュージアムに聞くマンガの海
- マンガミュージアム 海会議 vol.01

海には、冒険や旅、恋愛、笑い、願い、命、環境など、たくさんの物語があります。そして、その一つひとつを自由な発想と豊かな表現で描けるのがマンガです。全国のマンガミュージアムとともに選んだ50作品には、実にさまざまな海が描かれています。大きな波の迫力や海の静けさ、生き物たちの営み、海と人とのつながりまで、マンガだからこそ伝わる海があります。読むたびに新しい海と出会い、海の見え方は少しずつ広がっていきます。同じ海でも、作品によって見えてくる景色はさまざま。マンガを読むと、海はもっと面白くなる！

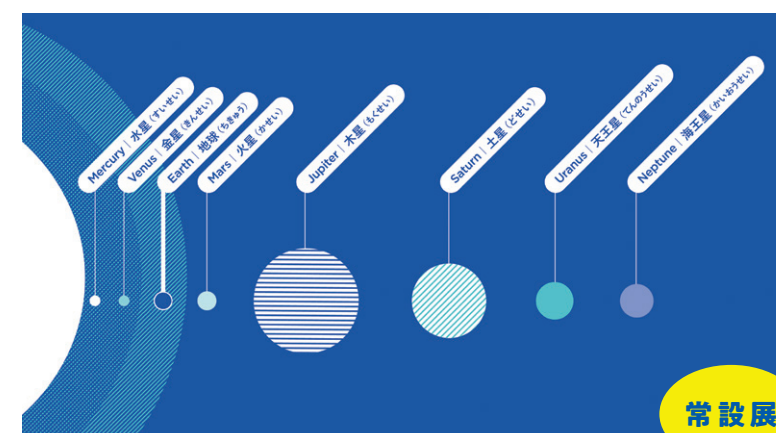


MOON
WEB site

MOON MUSEUM OF OCEAN NEXUS
海をつなぐミュージアム

海を知ると
世界がもっと
面白くなる。

海には、まだ知らないことがたくさんあります。本を読んだり、音楽を聴いたり、マンガを楽しんだり、デザインしたり、アートをつくったり。いろいろな展示をめぐりながら、海と人とのつながりを見つけてみましょう。海をつなぐミュージアム MOON は、海との新しい出会いを楽しむオンラインミュージアムです。



常設展

「なんで？」から始まる海の冒険
うみのきほん
地球にはどうして海があるの？ 海にはどれくらいの生き物がいるの？ 海のごみはどこにいく？ ふだんは気にしないけれど、考えはじめると気になることがたくさんあります。海の「なぜ？」をひとつずつたどりながら、海のしくみや地球とのつながりを楽しく学べる展示です。

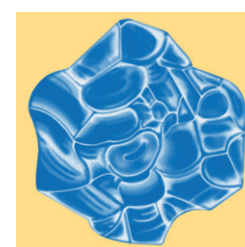
常設展

図書館とであう海の本

本をひらくと、新しい海に出会える
全国の図書館員が選んだ、海にまつわる本が集まりました。物語の海、冒険の海、生き物の海、まだ知らない海。次はどこな海にであってみる？

図書館と
であう
海の本

常設展



潮騒
RADIO
耳で旅する海
ミュージシャンやROCKが、海にまつわる曲を選んでプレイリストをつくりました。どんな景色を思い浮かべながら選んだのでしょうか？ 音楽と一緒に、それぞれの海を旅してみてください。あなたは、どんな海を思い浮かべますか？

募集中!

「海をつなぐマンガ50選」
展示を開催してみませんか？

学校や図書館、地域施設などで「海のマンガ50選」の展示を行いたい団体を募集しています。海をテーマにしたマンガをお届けし、子どもから大人まで楽しめる展示づくりをお手伝いします。「海についてもっと知りたい」「本やマンガと出会うきっかけをつくりたい」そんな思いのある学校・図書館・施設・団体のみなさん、ぜひご参加ください。



問い合わせはこちらまで



みなとラボ
3710Lab

「海と人との学びでつなぐ」をテーマに、教育学者や科学者、作家、デザイナーらが協働。教育や文化活動を通して、海と人との豊かなつながりを育んでいます。



海をつなぐ
マンガ
100選

マンガを通して海へ旅する展示です。冒険や恋、食、仕事、記憶など、さまざまな海を描いた100作品を通して、海の広がりとおもしろさを届けます。

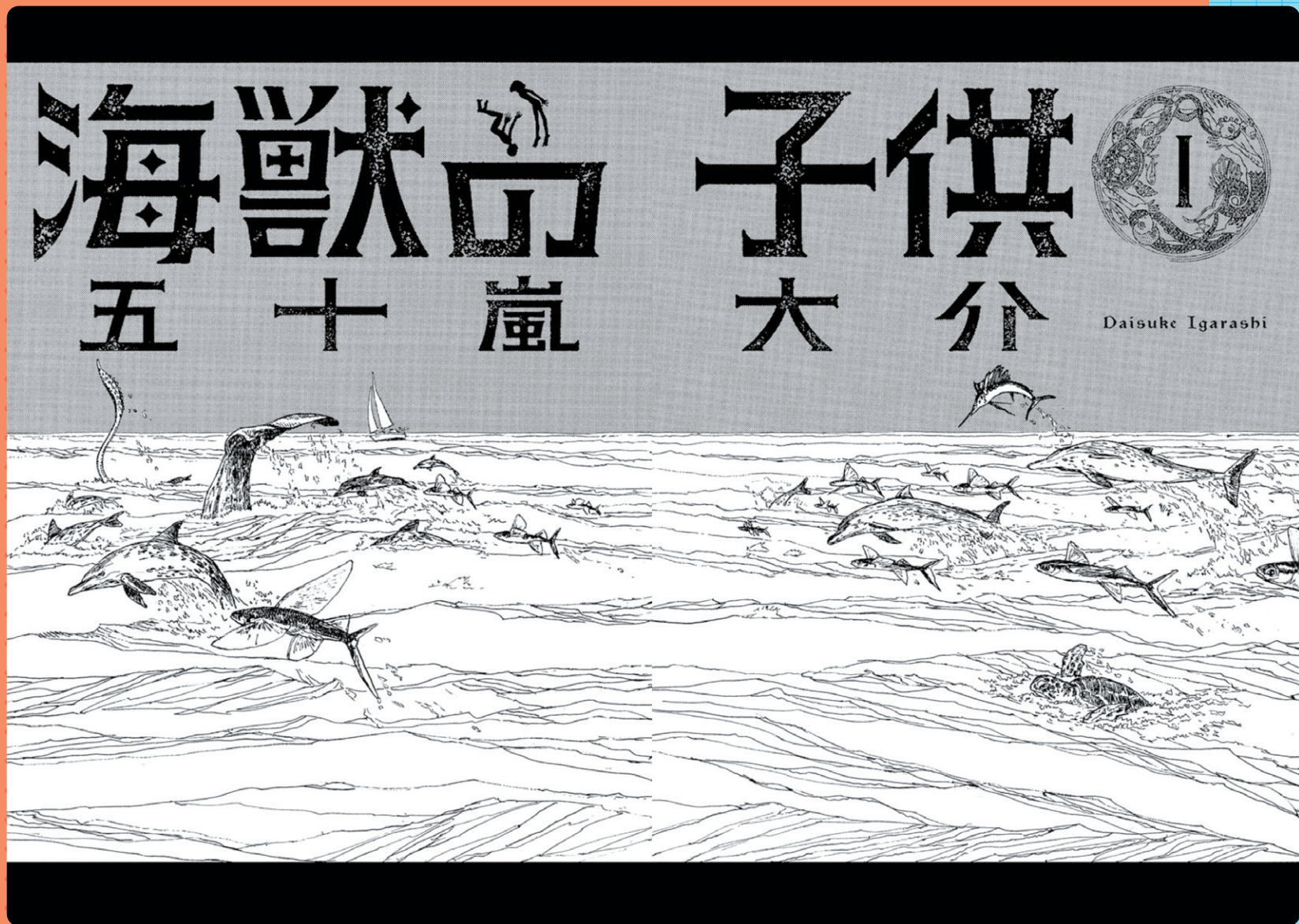


発行：一般社団法人3710Lab
編集：田口康大／川名泰夢
AD・デザイン：Salmon Design
徳久友希／深澤朱子
印刷：株式会社グラフィックネットプリント
助成：日本財団
発行日：2026年7月20日（海の日）
お問い合わせ：一般社団法人3710Lab
info@3710lab.com / 03-6823-8307

五十嵐大介

海獣の子供

うねる波は、海の姿であると同時に、生き物たちの躍動を表す。海と命がひとつのリズムの中で響き合っている。



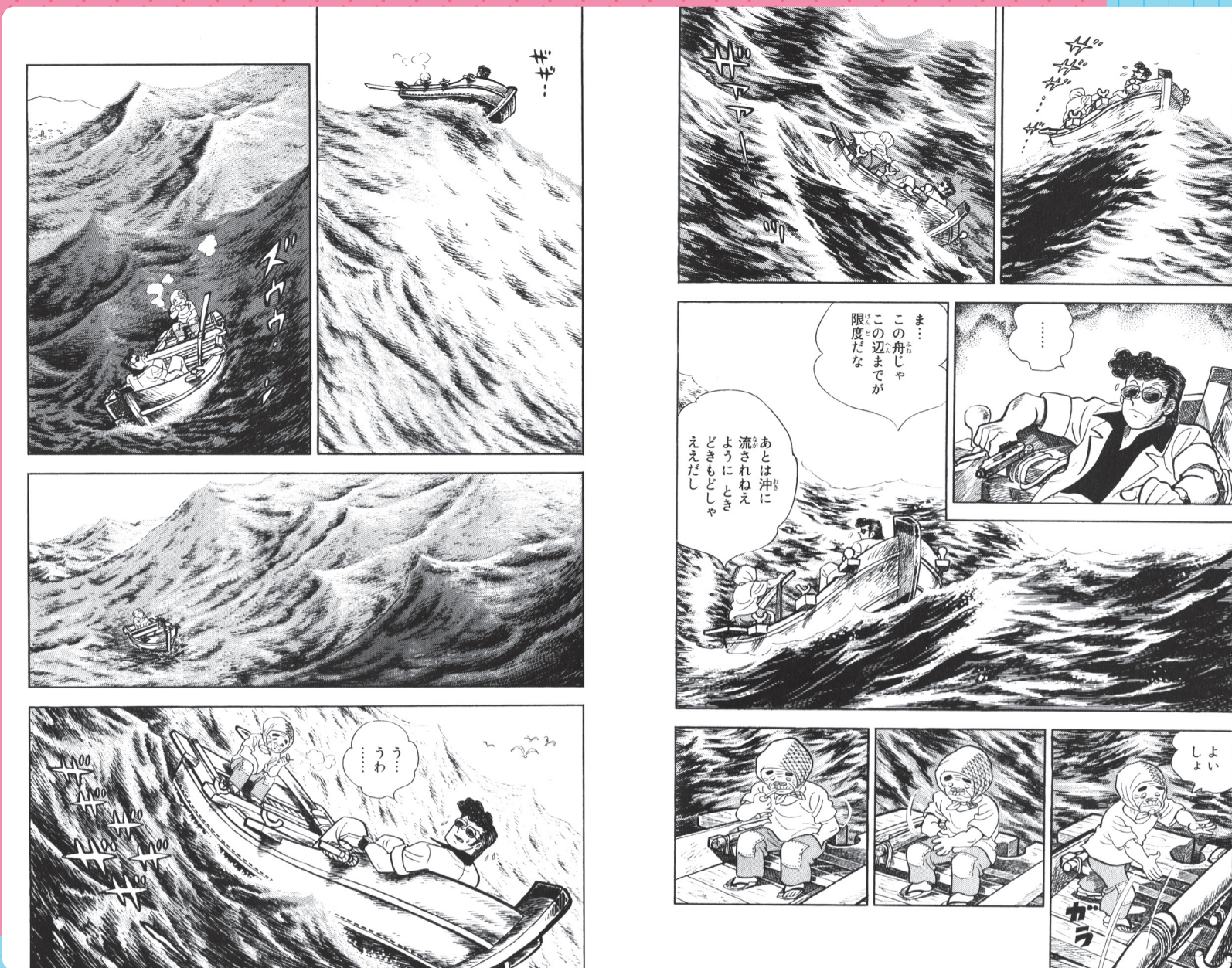
© 五十嵐大介 / 小学館

ちばてつや

茂助じい

所収『風のように』

事件を起こした男が船に乗って逃げるが、荒れた海は思っている以上に大きくうねり荒れ狂っていく。

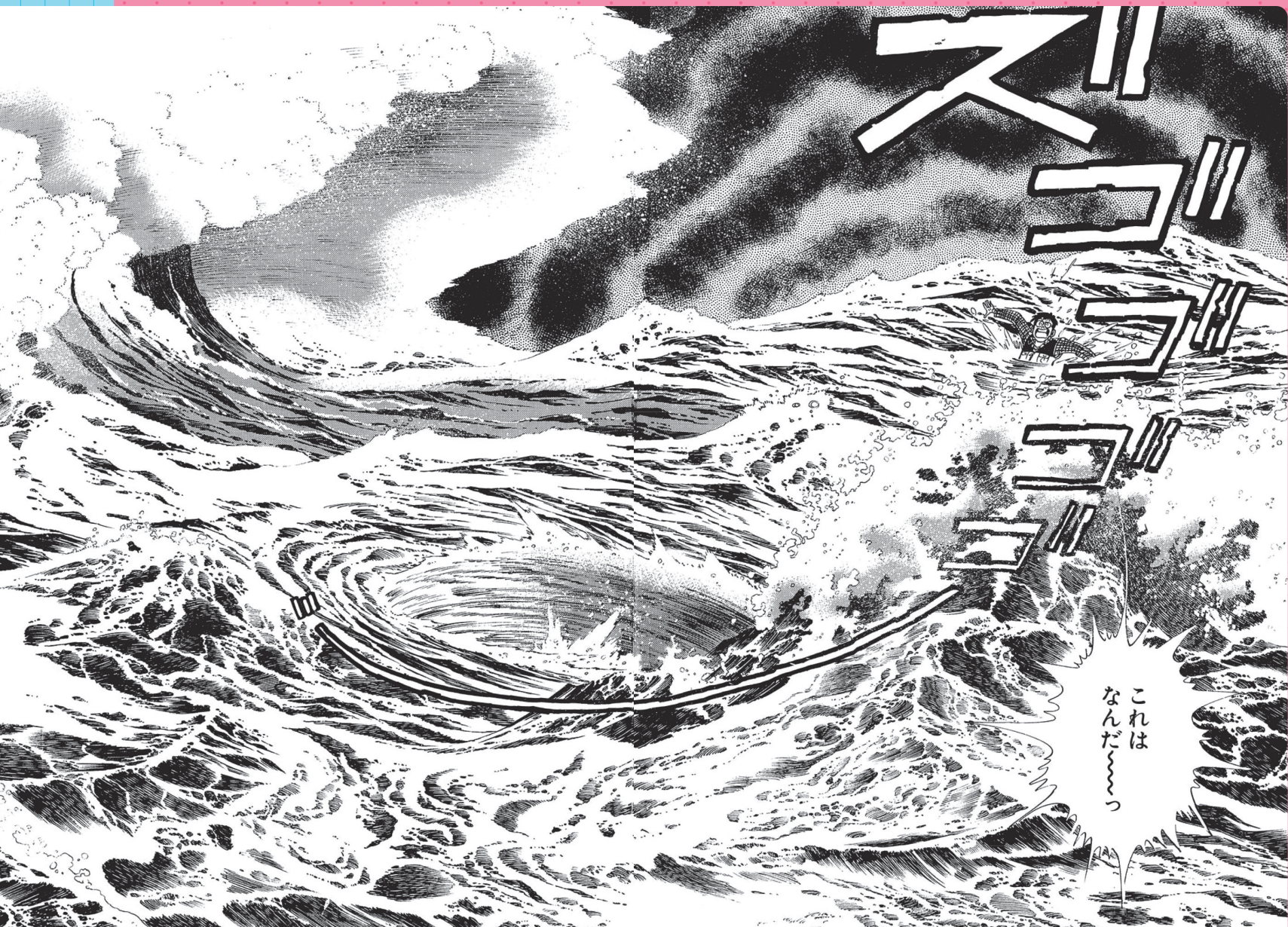


© ちばてつや

矢口高雄

激濤 Magnitude 7.7

さっきまで静かだった海が、一瞬にして巨大な力へと姿を変える。その圧倒的な力は、人の想像を超えていく。

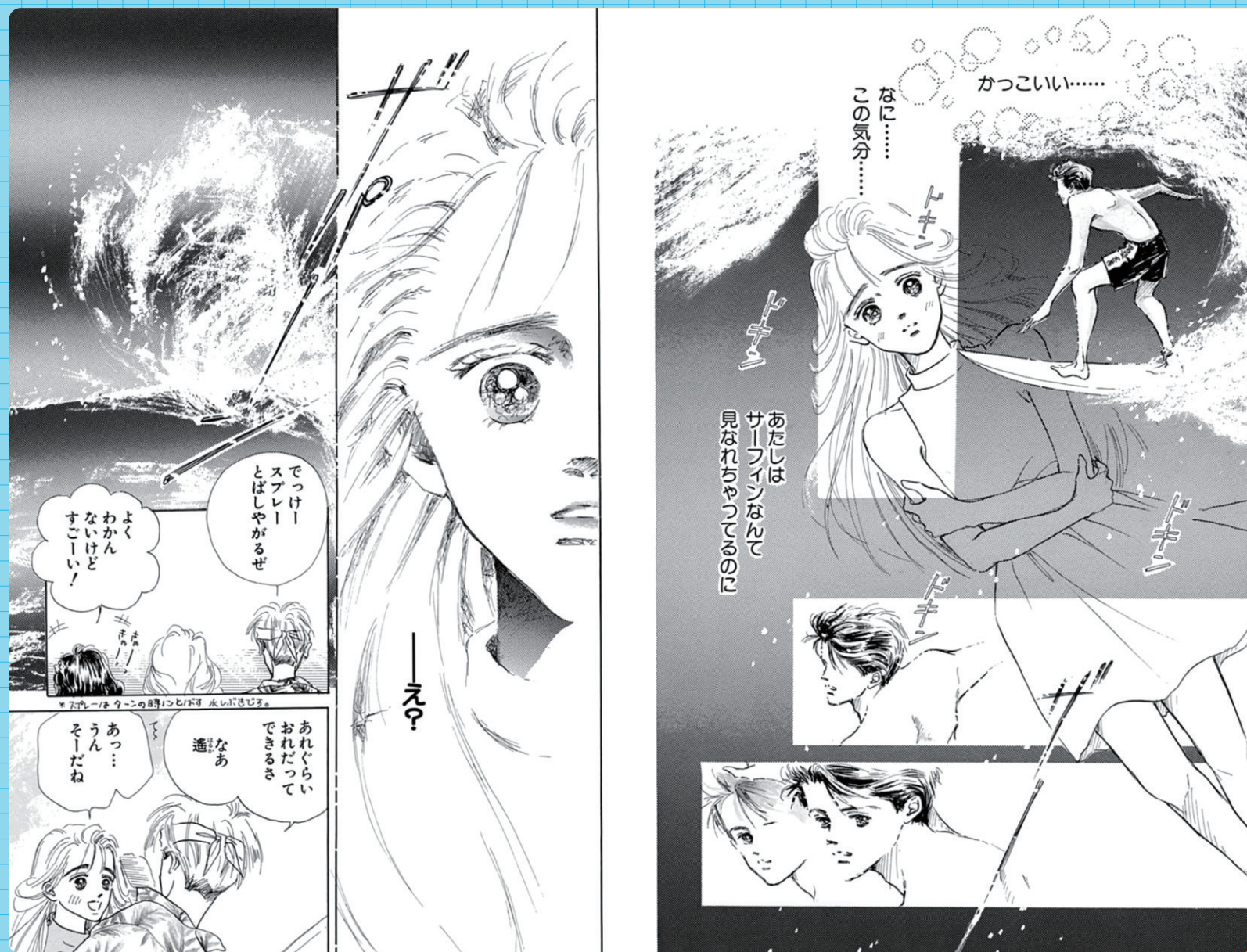


© 矢口プロ

矢沢あい

マリンブルーの 風に抱かれて

波を駆けるその人は、かつて思い焦がれ、会えなくなった人だった。それとともに大きく波打つ胸。



© 矢沢あい / 集英社

大白小蟹

うみべのストロブ

波の音だけが響く海辺では、しまい込んでいた本当の気持ち少しずつ言葉になる。

© 大白小蟹 / トーチ web

市川春子

25時のバカンス

静まり返った夜の海。波が二人の緊張を語っている。

© 市川春子 / 講談社



19



18

〈漫画〉
近藤ようこ
〈原作〉
湊澤龍彦

高丘親王航海記

海は行き先を約束しない。ただ、願いを抱いて進む者の旅を見守っている。

© 近藤ようこ / KADOKAWA

〈著〉
アリックス・ガラン
〈訳〉
吹田映子

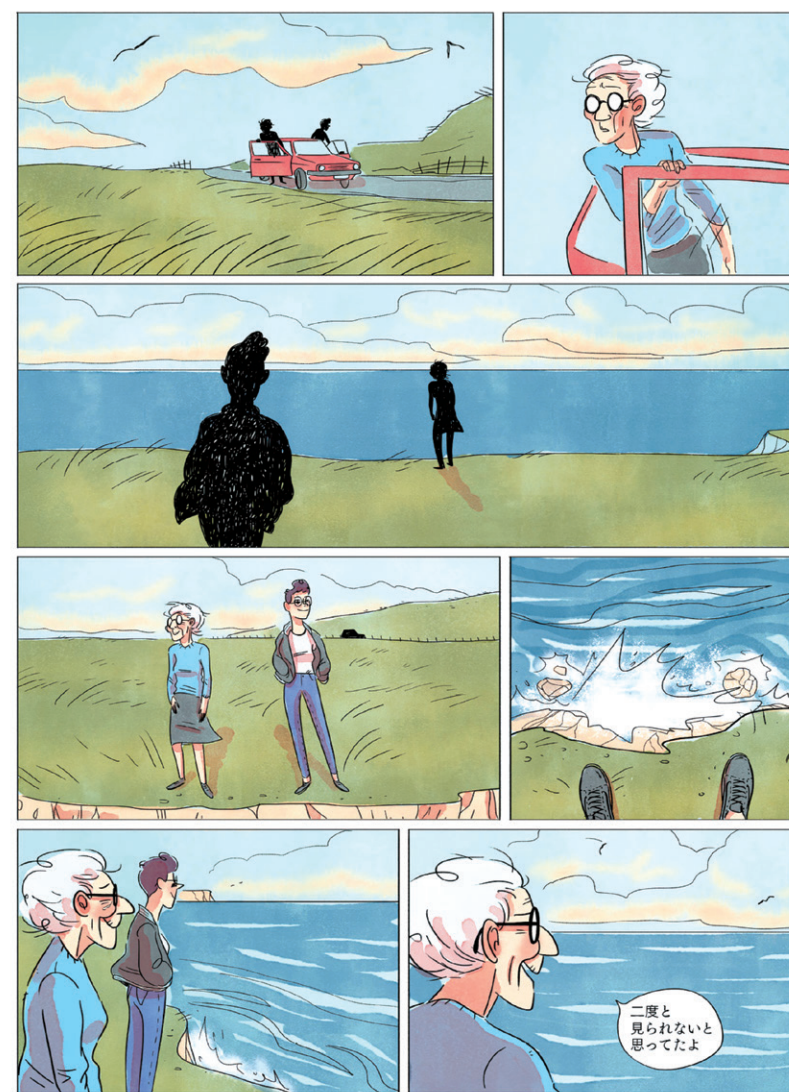
わたしを
忘れないで

早く会いたいと願っていた海が、眼前に広がる。その海は人物の思いを静かに受け止める。

© GARIN



156



157

冒険や恋愛、神話、
グルメ、学びまで、
海はさまざまな
物語の中にある。
同じ海でも、作品
ごとにまったく違
う海の世界が広
がっている。

多様な海 DIVERSITY

海を学ぶマンガが50選

IMAGINATION

想像

海は、まだ知らない世界を思いが
かせてくれる場
所。想像を広げる
ことで、見えない
海や未来の海と
の新しい出会い
が生まれていく。



ぼくらの燈台
(所収「ぼくらの燈台・五少年漂流記」)
芳賀たかし/創風社



激濤 Magnitude 7.7
矢口高雄/山と溪谷社



海獣の子供
五十嵐大介/小学館



海が走るエンドロール
たらちねジョン/秋田書店



ブルーホール
星野之宣/講談社



第九の波濤
草場道輝/小学館
© 草場道輝/小学館



蟲師
漆原友紀/講談社



BORDER66
原作=小森陽一 漫画=藤堂裕/集英社



海のトリトン
手塚治虫/手塚プロダクション



3月のライオン
羽海野チカ/白泉社



8月のソーダ水
コマツシンヤ/太田出版



うみべのストープ
大白小蟹/リイド社



わたしを忘れないで
著=アリックス・ガラン
訳=吹田映子/太田次郎社エディタス



海神記 (上)
諸星大二郎/光文社



沈黙の艦隊
かわぐちかいじ/講談社

ENVIRONMENT 環境

海は、世界中の海
や生き物、そして
私たちの暮らしと
つながっている。
そのつながりに
気づくと、海の
見え方も少し変
わってくる。



マリンブルーの
風に抱かれて
矢沢あい/集英社



ハチミツとクローバー
羽海野チカ/集英社



ダンビアのおいしい冒険
トマトスープ/イースト・プレス



彦助い
(所収「風のように」)
ちばてつや/久志本出版

SEASONS 季節

海は季節によってさま
ざまな表情を見せてく
れる。春夏秋冬、それぞ
れの海に流れる時間や
景色が、豊かな季節を感
じさせてくれる。



海街 diary
吉田秋生/小学館



クッキングパパ
うえやまとち/講談社



菜
わたせせいぞう/玄光社



髪を切りに来ました。
高橋しん/白泉社

SHIPS 船

船は、人や文化、夢を
運びながら、海と世界
をつないできた。船と
ともに海を旅すると、
人と海が育んできた物
語が見えてくる。



潜水艦スーパー99
松本零士/秋田書店



ヴィンランド・サガ
幸村誠/講談社

CREATURES 生き物

海には、たくさんの
生き物たちが暮らし
ている。一つひとつの
命が、つながり合い、海
という大きな世界の豊
かさが生まれている。



25時のパカンス
市川春子/講談社



大海に響くコール
遊維/小学館
© 遊維/小学館

WISHES 願い

海は、ときに願いをた
くし、ときに祈りを受
けとめる場所。人そ
れぞれの願いが重なり
合い、海との深いつ
ながりが見えてくる。



日の鳥
こうの史代/日本文芸社



高丘親王航海記
漫画=近藤ようこ 原作=遊澤龍彦
KADOKAWA



水族館が好きすぎて!
まつおるか/ KADOKAWA



実録! シーフードを飼う男
そにしけんじ/小学館
© そにしけんじ/小学館



マグメル深海水族館
榎下聖海/新潮社



ばらかもん
ヨシノサツキ
スクウェア・エニックス



塩の街
～自伝三部作シリーズ～
弓きいろ 原作=有川ひろ/白泉社



終末パートナー
北村みなみ/ KADOKAWA



旅する海とアトリエ
森永ミキ/芳文社



マイ・ブロークン・マリコ
平塚ワカ/ KADOKAWA



音盤紀行
毛塚一郎/ KADOKAWA

JOURNEY 旅

海は、新しい世界へと続く
道でもある。旅立ちや冒険、
出会いと別れを重ねなが
ら、海に向こうへ広がる
世界につながっていく。



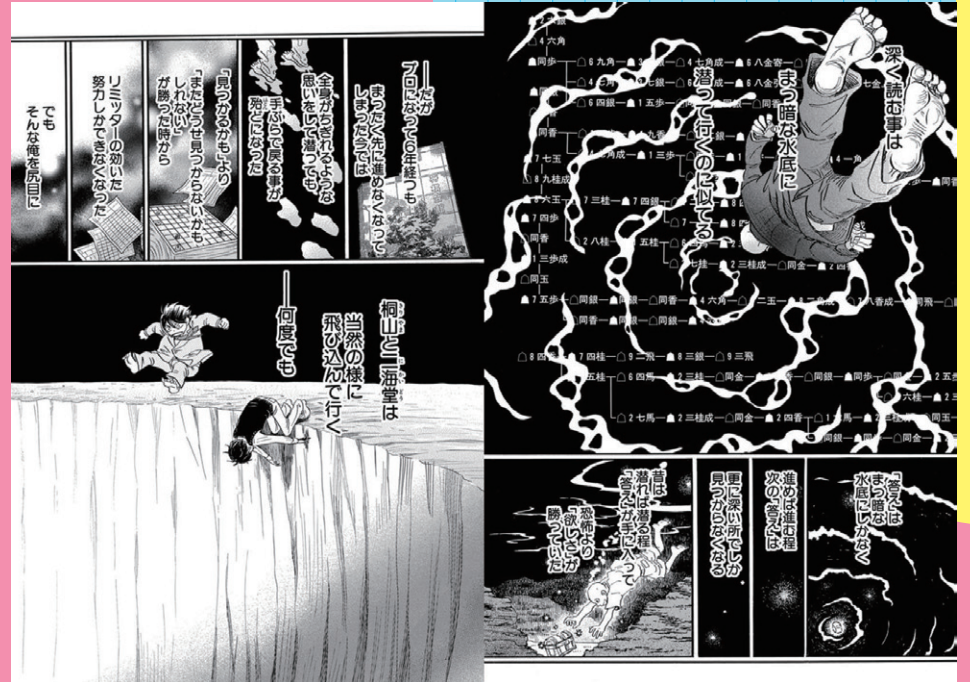
めざせ豪華客船!!
～船召喚スキルで異世界
リッチライフを手に入れる～
原作=たむたむ 漫画=ザザロン・ア
スクウェア・エニックス



コンクリートの船
村上たかし/小学館

マンガの海を 読みとく

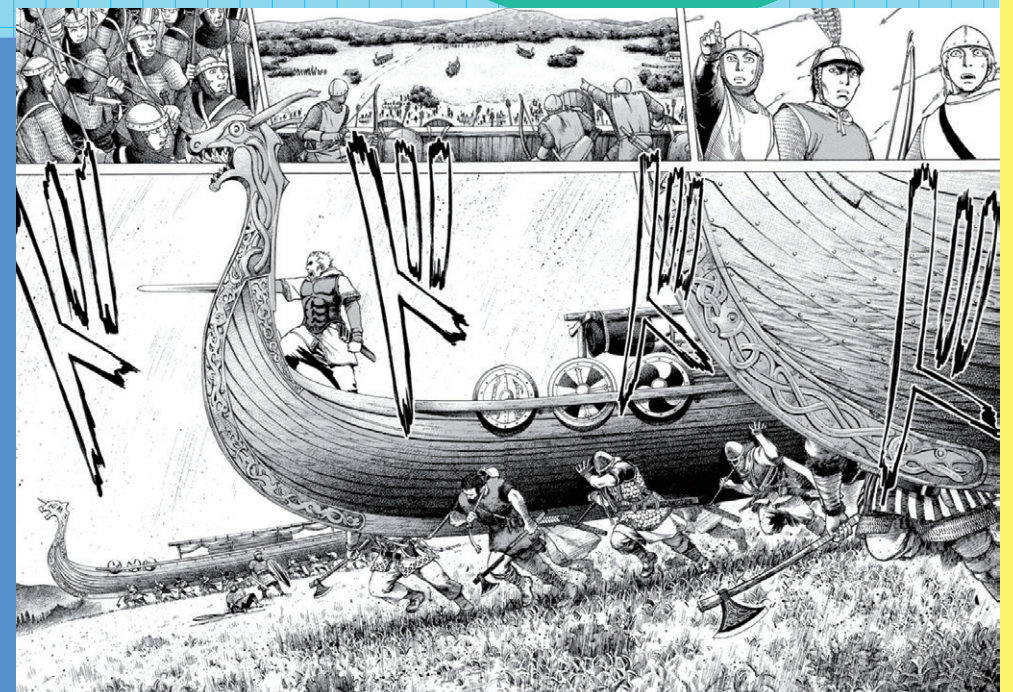
© 羽海野子カ / 白泉社



3月のライオン

本作では、個性豊かな棋士たちの心情が海に重ね合わせて表現される。対局中、周囲の音も届かず、景色さえ意識から消えるほど深く集中する姿は、暗く静かな深海へと沈んでいく情景として描かれている。一方、水面に光が差し込み、きらめく明るい風景は、主人公がさまざまな人と出会い、交流を重ねるなかで感じる温かさや心の変化を映し出すものとして表現されている。登場人物の繊細な感情の機微と、海が見せる多彩な表情が美しく融合した作品である。

© 幸村誠 / 講談社



クッキングパパ

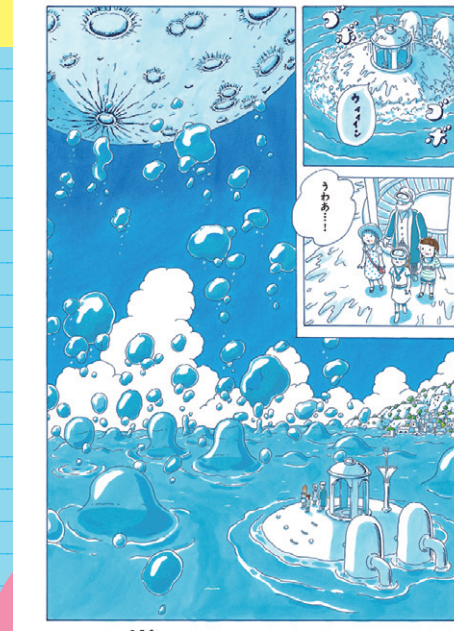
料理マンガの金字塔として知られる本作では、春夏秋冬、季節ごとの海のエピソードも多い。111巻では、夏の宮古島でスキューバダイビングを楽しむエピソードが登場。海底の景色や空気感が生き生きと描かれていて、自分まで海の中にいるような気分になる。ブダイやイラブーなど、南の海ならではの食材を使った料理も実においしいそう。作者は食材を求めて各地へ足を運び、40年以上にわたり、自ら食材を用意して料理を作り続けているという。その徹底した姿勢にも驚かされる。海と料理の魅力がたっぷり詰まった作品だ。

想像と海

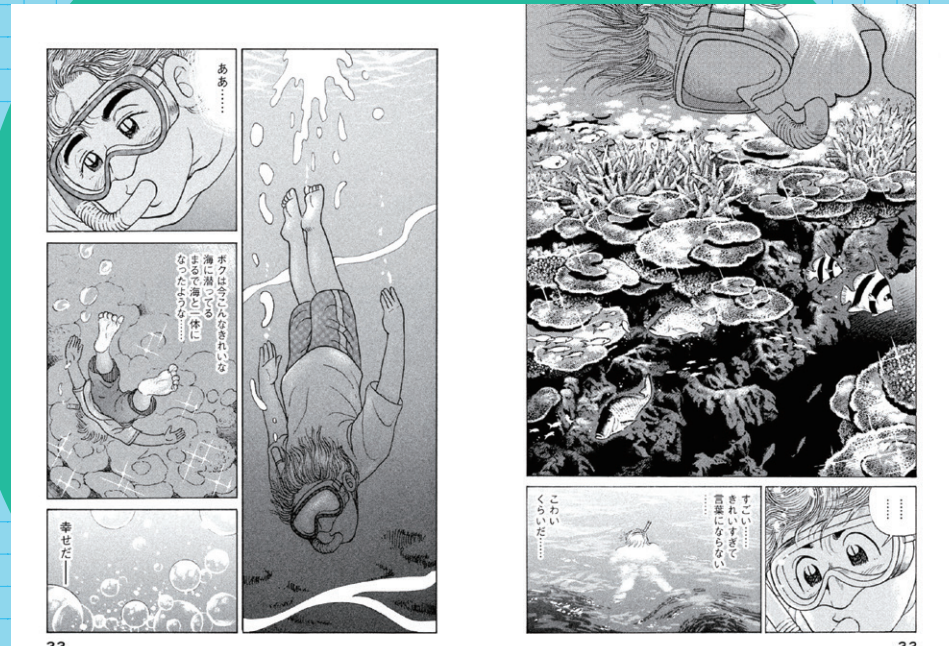
8月のソーダ水

海辺の街に暮らす主人公・リサの日常には不思議がいっぱい。歩く灯台と冒険する日もあれば、海底都市の少女と偶然出会うこともある。突飛な物語のようであり、子供のころに想像した夢の世界が目の前に再現されたような、既視感や親しみも覚える。海はあまりに広く深く、だからこそ私たちの想像力をどこまでも伸ばしてくれるのだと、本作を読むと思いつく。どのページを開いても、心ときめく風景と空想が詰まった宝石箱のような作品だ。夏の日差しを感じさせる明るく鮮やかな色彩は、見れば心が洗われるはず。特に海と空の透明感あふれる青が印象的。

© コマツシンヤ / 太田出版



季節と海



© うえやまとち / 講談社

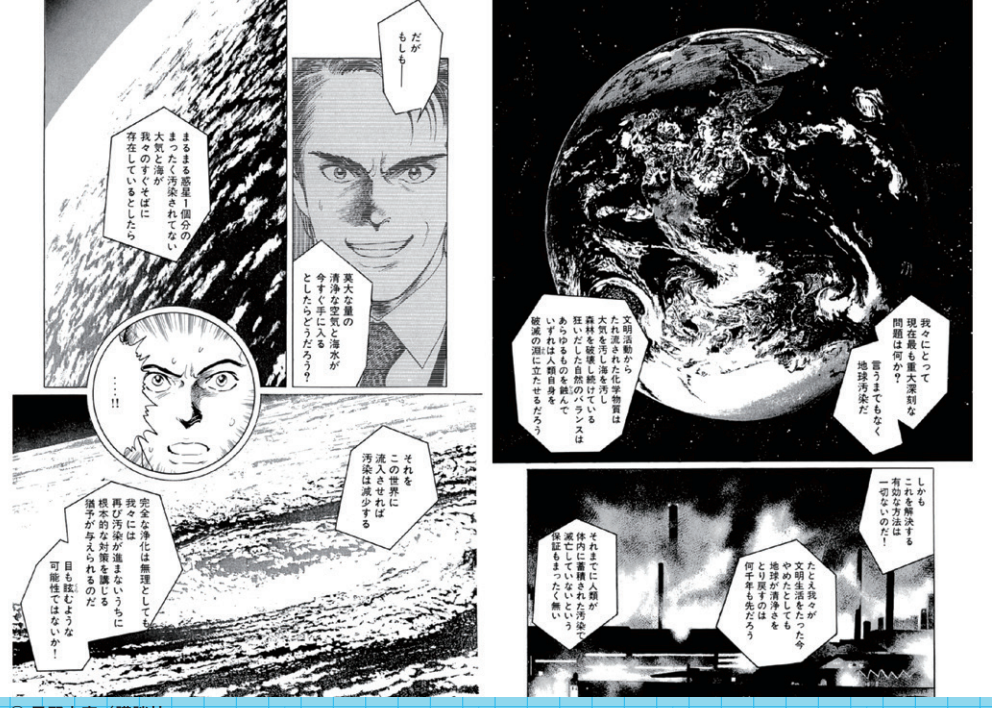
船と海

中世ヨーロッパの海でその勇猛さを誇っていたヴァイキング。アイスランドの勇者トルズの子トルフィンが、父のあだであるアシェラッドと決闘することを条件にその一回へ加わり、戦いの日々を身を投じていく。彼らは船で海を渡り、各地の村や砦を襲撃・略奪しながら生き抜いていた。荒々しい戦いや航海の迫力だけでなく、海と船に生きる者たちの価値観、誇り、そして「本当の戦士とは何か」という問いが描かれる重厚な歴史物語である。

環境と海

ブルーホール

人類の活動によって汚染された現代の海を、「ブルーホール」と呼ばれる時空のトンネルを使い、白亜紀の海水と入れ替えてしまう。そんな壮大なプロジェクトがもたらす海洋環境の激変にはたして地球は耐えられるか。『ブルーホール』『ブルー・ワールド』へと続くブルーシリーズは、海のマンガの決定版と言ってもいいだろう。古代と現代の海がつながる設定、時空を超えて移動する海洋生物「時神竜(クロノサウルス)」の存在など、圧倒的な構想力。この時期の作者の画力は圧巻で、ハリウッドの映画もかなわないほどの迫力がある。画力と構想力が見事に重なりあった名作としていつまでも記憶に残るだろう。



© 星野之宣 / 講談社

旅と海

マイ・ブローコン・マリコ

人はなぜ最期に海を目指すのだろう。不遇な人生の末に亡くなった親友の骨つぼを、彼女の両親から奪い取って逃げ出した夜。途方に暮れた主人公は、ふと思いつき、生前に友人が行きたがっていた岬へ向かう旅に出る。道中では、友人とのさまざまな思い出が浮かんで消えていく。振り返らなければ少しずつ薄れてしまう面影を追いつつ、主人公はついに岬へとたどり着く。しかし、その海への旅は、友人だけでなく主人公にとっても人生の果てであった。ささくれた様なエッジの効いた線で描かれる海の風景は荒涼としていて読者の心にも深く迫る。自暴自棄になった主人公をよそに、岬で次々と起こる出来事に振り回されながらも、いや応なく人生は続いていく……というラストも印象深い。



© 平塚ワカ / KADOKAWA

マゲメル 深海水族館

深海の生き物たちの不思議さや魅力を味わえる作品。見慣れない姿や生態が丁寧に描かれていて、「こんな生き物があるんだ」と発見する楽しさがある。命に対するやさしいまなざしも印象的。特に絵の美しさは際立っていて、暗い海の中でのほかに光る生き物や、水の質感まで繊細に表現された空気感は、まるで本当に水族館を訪れているかのよう。さらに、人間ドラマも見どころで、登場人物たちの人間味あふれる優しさに心が和む。こんな水族館があったら……ぜひ行ってみたいくなる作品。

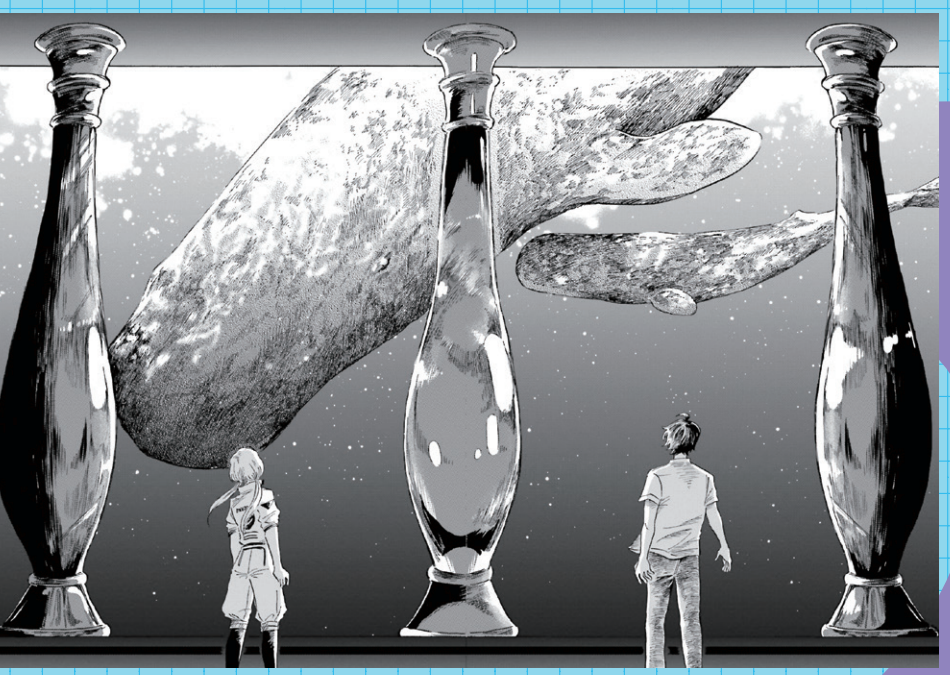
© そにしけんじ / 小学館



生き物と海

実録！シーフードを飼う男

「いいぞいいぞ！君はもう『食材』ではない！立派な『ペット』に生まれ変わったのだ！——」そんな強烈なセリフから始まる本作。日本のスーパーマーケットには多種多様な「シーフード」が並ぶ。それは食べ物である一方、もともとは海で生きていた「生き物」でもある。そんな「シーフード」をペットとして飼おうと奮闘する著者。読み進めるうちに、「食べ物」だった彼らにいつしか愛着が湧いてくるし、縁遠く感じていた海の生き物たちの生態がリアルで身近なものに感じられる。海の生き物への距離感を変えてくれる、一味変わったエッセイマンガだ。



© 榎下聖海 / 新潮社

マンガの海

京都国際マンガミュージアム

動かないのに揺れる海

私は普段、マンガやアニメを調査・研究しているが、自ら作品を制作することもある。そして「海」を描くことになったときは、いつも以上に緊張する。

たとえば、海の上に船があるとすると。甲板から見た景色と上空から見下ろした景色では、波の見え方はまったく異なる。それらを平面的絵で立体的に表現するのは、非常に難しい。海は穏やかな姿だけではなく、時間帯や天候によって刻々と表情を変える。嵐の海は鏡のように穏やかだが、嵐になれば大きな船でさえ波に軽々と持ち上げられ、勢いよく振り降ろされる。船内の人間もお手玉のように、陸とはまったく異なる世界なのだ。

アニメは動きそのものを動的に表現できるのでつくりやすく、マンガは静止画であり、コマ数やコマの大きさ、ページ数といった制限の中で表現しなければならぬ。その難しさの一方で、巧みに描かれたマンガを読むと、まるで自分も船に乗っているかのような錯覚に陥る。さらに理解を深めたいなら、ぜひ実際に揺れる船に乗ってみてほしい。その体験を経て改めてマンガを読むと、海の大きさや激しさを表現するための技巧の数々に気づくはずだ。

應矢 泰紀／おうややすのり

京都国際マンガミュージアム学芸室員。TVアニメやマンガの表現研究を行う。妖怪研究家の一面もあり妖怪マンガの監修や立休作品の作成も行う。お気に入りのマンガは『海皇紀』。



京都国際マンガミュージアム

マンガ資料の収集・保存・研究・展示を行う文化施設です。江戸期の戯画浮世絵から国内外のマンガ作品まで約30万点の資料を所蔵。館内には約5万冊のマンガ単行本が自由に読める書架「マンガの壁」がある。また、展覧会やイベントを通して、日本が誇るマンガ文化の魅力を国内外へ発信しています。

📍京都市中京区烏丸通御池上ル（元龍池小学校）

ミュージアム

心を映す海の景色

マンガでは、ときに海の姿を借りることで、人物の背景や感情を表現する。それは、海のイメージが作者と読者の間で共有されていることを前提に、ある種の記号として機能するからである。たとえば日本では、南の海は「賑やか／おおらか／光／夏」、北の海は「静寂／厳しさ／荒波／冬」といった印象を与えることができる。

くわえて、「海の表情」という言葉が表すように、その移り変わる姿は鏡のように人々の感情を映し出す。だから、高橋しんの『髪を切りに来ました。』では、登場人物の高ぶる心情に呼応するように海面の輝きが増し、大田小蟹『うみべのストープ』では、主人公がフラれた恋人に思いをはせるのは、鼻の奥がツンとするような寒たい冬の海でなければならなかった。このような海に対する感情の機微は、読み手の共感にくわえ、作者の出身や体験などからにじみだす空気感も影響している。秋田県出身の矢口高雄が『激漣』で描く黒々と荒々しい海は、人をたやすく飲み込む恐ろしさを読者に追体験させる。この実感のこもった表現は、東北の厳しい自然に育った矢口だからこそ描けるものだろう。

物語における海の家象表現は、作者と読者、それぞれの経験が重なり合うことで、より深く読み解くことができるのである。

石井 茜／いしいあかね

北九州市漫画ミュージアム学芸員。展覧会の企画や研究活動などに携わる。2024年より読売新聞のマンガコラム「いちおし!」を担当。お気に入りのマンガは『マカロニほうれん荘』。



田中 千尋／たなかちひろ

北九州市漫画ミュージアム 図書担当。閲覧ゾーンで約7万冊の資料を管理している。2022年より朝日中高生新聞でコラム「マンガテーマパーク」を担当。お気に入りのマンガは『銀魂』。



北九州市漫画ミュージアム

2012年に開館した北九州市立のマンガ博物館。「見る」「読む」「描く」の三つのテーマから成り立っており、北九州ゆかり作家の業績をはじめ、マンガの歴史や文化について紹介する展示エリアや、7万冊の蔵書を誇るマンガの閲覧ゾーン、マンガの描き方講座などを開催するイベントコーナーがある。マンガ原画も約14万点所蔵。

📍福岡県北九州市小倉北区浅野2-14-5あるあるCity5・6階

合志マンガミュージアム

ワクワクでたどりつく海

海を舞台にしたマンガには、冒険とロマンがあふれています。はてしなく広がる水平線、未知の世界への旅、荒波を越えて進む船旅、そして海に生きる人々の姿……。ページをめくるたびに、私たちは海の魅力に引き込まれ、自由や挑戦への憧れを抱きます。

一方でマンガが描く海は、美しい景色だけではなく、豊かな海の恵みや自然の厳しさ、環境の変化など、現実の海が抱える課題にも目を向けるきっかけを与えてくれます。物語を通して海を身近に感じること、海洋こみや環境保全、生き物たちの暮らしについて、「もつと知りたい!」「守りたい」という思いが自然と生まれることもあります。マンガの魅力は、楽しみながら学べることです。登場人物とともに海を旅し、その世界を追体験することで、読者は楽しみながら海への理解を深めていきます。

知識を一方的に伝えるのではなく、興味や関心を育てる——それこそがマンガの持つ大きな力ではないでしょうか。

海は私たちの暮らしと深くつながる大切な存在です。そして海を描いたマンガは、夢や感動を届けるだけでなく、未来の海について考える「学びのきっかけ」にもなります。一冊のマンガからはじまる小さな気づきが、海を知り、海を大切にする心へとつながっていくのです。



合志マンガミュージアム

マンガを「読もう・観よう・学ぼう」をコンセプトにした、熊本県内唯一のマンガミュージアム。約6万冊のマンガを収蔵し、その中から選り出した1960年代～現在までのマンガ約2万冊が閲覧できるほか、企画展やワークショップ、トークイベントなどを開催。世代を問わず多くの人がマンガを通して交流できる文化拠点として親しまれている。

📍熊本県合志市御代宅 1661-271



橋本 博／はしもとひろし

合志マンガミュージアム館長、NPO法人熊本マンガミュージアムプロジェクト代表。マンガ古書店「キラ文庫」を創設し、著書『教養としてのマンガ』では第41回日出版文化賞を受賞。お気に入りのマンガは『風雲児たち』。



南木 伶／なんもくれい

合志マンガミュージアムプレイングマネージャー。イベントや展示の企画・広報、施設運営全般を担当。マンガ文化の魅力を広く発信するとともに、地域や学校との連携を通じた文化振興に取り組んでいる。お気に入りのマンガは『風の谷のナウシカ』。

マンガだから描ける海

——京都 應矢—— 僕はマンガの研究者であり、一人でアニメの制作の依頼を受けています。なので、マンガにできてアニメにできないこと、「アニメにできてマンガにできないこと」は何か？をずっと考えてきました。その目線で『沈黙の艦隊』を読むと、本来聞こえないはずの音が聞こえてくる感覚があるんです。衝撃を受けました。

——370Lab—— オノマトメも、そんなに多くないですね。

——京都 應矢—— そうなんです。なので、客観的に読み直して「こではどんな音が聞こえているんだろう」「その音をどう表現しているんだろう」と考えながら観ると、あらためてマンガのすごさを感じます。

——北九州 石井—— 独特な海を描くマンガ家はたくさんいますが、その魅力をアニメや動画でそのまま表現するのは難しい。マンガだからこそ描ける海があるんだと思います。

——京都 應矢——（独特な海が描かれた）マンガを読みながら、「これをアニメにしたらどう表現するだろう」と考えるんですが、すぐに「無理だ」と思います（笑）。DGSで作られた海を見ても、「がんばっているけど、これは海じゃない」と感じる人が多いですが、マンガに出てくる海には、「これは海だ」という説得力がある。「海らしさ」を感じさせるのは陸と比べて本当に難しいんです。

——合志 橋本—— 星野之宣の『ブルーホール』シリーズもアニメ化して欲しいけど、アニメ化のハードルが高そうだね。

——京都 應矢—— 海の質感、特に海中の無音の表現が、あのマンガでは本当に表現されていますね。

——北九州 石井—— 海は、見る人によっても、時間によっても、場所によっても表情が変わります。その奥深さがあるから、マンガでは独自の表現がたくさん生まれるんでしょうね。

読むほど広がる海のイメージ

——合志 南木—— 私は最初、「海をつなぐマンガ」といえば、船もある、水族館もある、人魚姫も海の中からそうだと考えていたんです。でも「願い」や「想像」といったテーマを持つ、マンガの中の海に着目すると、海はほとんど広がっていききました。モノや生き物だけでなく、人の想いにも乗ってくる海がある。いろんな人の目を通した海がある。知っていた海がわからなくなり、それとともに海の可能性が広がったと感じました。

——北九州 石井—— すこくわかります。最初にリストアップしたときから候補が3倍ぐらいに増えました。「海のマंगाって、こんなにあったんだ」と思いました。

——京都 應矢—— キャプテンハーロック」を選ぶか迷いました。アニメ版の宇宙の海は俺の海」という歌詞が頭に浮かび、「宇宙も海なのか？」と考えたんです。そこから、海のイメージが一気に広がりました。

——合志 南木—— 広がらずに選べなくなったことを考えると、宇宙も海だし、海も宇宙ですね（笑）。

——京都 應矢—— 宇宙兄弟」にも、水のある星にはどんな生き物がいるのか想像する場面もあって、地球の海だけでなく、ほかの星の海へも想像が広がります。

——370Lab—— 海も宇宙も「広い」のは共通ですが、その広がり方は違いそうです。今度は「海と宇宙」というテーマでも考えてみたいですね。

マンガは海への入り口

——370Lab—— 最後に、子どもたちに伝えたいことはありますか。

——合志 橋本—— 私がマンガを読み始めた1960年代から50年以上が経ちましたが、海の質は変わっています。昔は水銀汚染、今はマイクロプラスチックのように、見た目ではわからない問題があります。



——370Lab—— 2026年3月に、「海をつなぐミュージアム MOON」というウェブサイトができました。その取り組みの一つとして、今回は皆さんに「海をつなぐマンガ100選への協力をお願いしています。まずはそれぞれの館で特に印象に残っている作品を教えてください。」

ひとつの海 多様な表現

——合志 橋本—— ちばてつやの『茂助じい』ですね。初めて読んだときの印象が忘れられません。特に波の絵です。船で海へこぎ出す場面を見ると、自分も一緒に船に乗っているようで、だんだん船酔いしてくる。海が上がって、下がっていく。その感じは、マンガにしか表現できないものだと思います。

——370Lab—— 直線が、本も出てこないかと思うほど、渦巻／シンが多いですね。

——合志 橋本—— この波の

